

「卓越大学院プログラム」中間評価結果

機関名	長崎大学	整理番号	1814
プログラム名称	世界を動かすグローバルヘルス人材育成プログラム		
プログラム責任者	北 潔	プログラムコーディネーター	有吉 紅也

(評価決定後公表)

<p>(総括評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。 <input checked="" type="checkbox"/> A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。 <input type="checkbox"/> B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。 <input type="checkbox"/> C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。 <input type="checkbox"/> D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。 <p>[コメント]</p> <p>大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、グローバルヘルス研究支援グラント、プラネタリーヘルス学環、Doctor of Public Healthなど、本プログラムを拡充・拡大し、他研究科からの関与を強化していく方向で努力がなされていることは評価できる。他方で、Joint degree など本プログラムの特色ある教育の仕組みを、他研究科においてもさらに展開していくこと、またプラネタリーヘルス学環において、本プログラムの対象分野である感染症学・疫学と他の学問分野との関係がより明確化されていくことが期待される。</p> <p>修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、目標値を大きく上回る数の国際学術論文がすでに発表されるなど、充実した学術的成果をあげていることは高く評価される。学生は本プログラムの趣旨をよく理解して高い研究意欲を示しており、修了後も本プログラムでの経験を活かして、引き続き学内外の研究機関や国際機関での活動を目指す者が多いことも、本プログラムが優れていることを示している。しかし同時に、学生の多様な経験・交流機会の拡充や、国内の民間企業や行政機関などのキャリアルートの強化などに関して、改善が期待される。</p> <p>高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導體制の整備については、LSHTMとの連携のもとに、多数の英語授業やQEをコロナ禍でもオンラインで実施し、海外での研修を実施する努力を続けていることは高く評価される。しかし、正規生の入れ替えシステムのプレッシャー、博士課程における1年ごとのQEの切迫感など、懸念点も見出だされることから、引き続き改善策が期待される。また、学生間の協働や主体的な企画などの活性化も期待される。</p> <p>優秀な学生の獲得については、プログラムへの志願倍率は順調に上昇し、国費や派遣</p>

による優秀な留学生を海外から獲得することができていること、企業従業員を対象とする社会人枠の導入も検討されていることなどは高く評価できる。ただし、ホームページなどを通じた情報提供やアピールには、さらなる改善の余地がある。

世界に通用する確かな質保証システムについては、博士課程における LSHTM と合同の QE や、その公開実施により、学生の研究水準は高度に保障されている。また、先述の通り目標を大きく上回る研究成果を学生が上げていることも高く評価できる。

事業の継続・発展については、LSHTM とのパートナーシップに関する運営委員会の拡充・拡大などマネジメントの改善が進められていることは評価できる。ただし、長崎大学側の教員が LSHTM の教育にいっそう参画するという側面を含め、連携強化の努力がさらに期待される。企業との共同研究等の拡大も計画されているが、資金源の多様化や増強について、さらなる展開が期待される。